

2019年8月10日 チャレンジ子育て支援センター「にじのくに」

命の大切さをまなぼう！～みんなちがって、みんないい～

今回、長崎大学医学部保健学科4年生 田淵佑佳さんと宮崎千夏さんの卒業研究として、チャレンジ子育て支援センター「にじのくに」で、いのちの教育を行いました。子どもさんの年齢は、下は1歳から20歳と幅広く、保護者や教育現場からの参加もあり、とてもにぎやかな会となりました。

今回のプログラムは、『PTUの味』『遺伝の木』『特徴ゲーム』で、自分の身体の特徴を使ったゲームです。



『PTUの味』では、薬液をしみこませたろ紙をなめてみます。「にがい～～！」という子もいれば、「なんの味がしない…」という子もいました。これは遺伝の特徴の一つです。

つづいて、『遺伝の木』では、“一重まぶた“か”二重まぶた“か、“親指が大きく反るか”など、その他の遺伝の特徴をみていきました。特徴があるから良いとか、ないから悪いとか、そういうことは全くありません。あってもなくてもどちらでもよいのです。

左の写真は、耳の形を見ている様子です。子ども達は特徴カードに、自分の特徴を示した特徴シールを選んで貼っていきます。

すると…世界に一つだけの自分のお花のカードが出来上がりました。このお花のカードを、壁の『遺伝の木』に貼っていきます。木の根本からスタートして自分の特徴がある枝に進んで、行き着いた枝先にお花のカードを貼ります。今回、全ての枝にお花がきれいに咲きました。みんながいろんな特徴をもっているから、こんなきれいな花が咲くのです(多様性)。



『特徴ゲーム』では、最初は全員で手をつないで、1つの輪を作ります。次にある特徴を述べて、“ある”“なし”で分かれて輪を作ります。これを繰り返すと最後は一人になり、自分と同じ特徴の組み合わせを持つ人がいないということがわかりました(唯一性)。

私たちはこれまで開催した講座は、対象を決めて行うことが多いです。今回は幅広い年齢層の参加者で、年齢を超えて一緒に学ぶことの大切さも強く感じました。これからは、教育の多様な在り方も考えていきたいと思えます。

暑い日に参加して下さった皆さん、そして「にじのくに」のスタッフ皆さん、どうもありがとうございました。

2019年8月24日 文責 佐々木規子